

【特徴】

総合診療科の目指す診療は、発熱、体重減少など対応すべき専門診療科を特定できない初来患者や、膠原病など問題点が各臓器にわたり、各臓器別専門診療では対応困難な患者を対象とする。各専門診療科への振り分けだけでなく、問題点や疾患の鑑別診断・治療方針決定を外来あるいは総合診療科病棟への入院によって行い、必要な場合は各専門診療科と共同で診断・治療を行っている。

自科のカンファレンスの他に、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓・高血圧内科、血液内科、神経内科、感染症内科等の専門診療科とともに定期的なカンファレンスを行い、内科学会や各専門学会等に参加し、臨床研究や症例報告も積極的に行い、診療レベルの維持・向上を図っている。

【研修目標】

1. 一般目標

様々な内科疾患の診断、治療、予防等に対する幅広い知識を習得し、あらゆる疾患の初期対応ができるように研鑽する。また超音波などの検査や治療のための技術を習得していく。

2. 行動目標

- (1) 内科外来における初診・トリアージが責任をもって行える。
- (2) 適切なタイミングで専門医にコンサルトでき、状況を適切に説明することができる。
- (3) 病棟における入院患者の診断・治療が責任をもって行える。
- (4) 他科からのコンサルトに適切に応えられる。
- (5) 診断のために必要な腹部および心臓超音波が行える。
- (6) 診断のための各種体腔穿刺（胸腔、腹腔、脳脊髄液、骨髄）ができる。
- (7) 研修医・学生の指導が責任をもって行える。
- (8) 学会で症例発表ができる。
- (9) 内科学会認定医および専門医取得のための要件を満たす。

【方略】

- (1) 初期には指導医について外来の流れを研修し、後期には週1～2回の総合外来を担当する。
- (2) 入院患者の主治医となり、指導医の指導を受けながら、診断・治療・退院決定までを行う。
- (3) 他科からのコンサルトがあった場合、積極的にベッドサイドに行き診察を行う。
- (4) 消化器内科医師や循環器内科医師の指導のもと、超音波診断を習得する。
- (5) 他科の指導を受けながら診断のための各種体腔穿刺を経験する。
- (6) 研修医・学生の受け入れを積極的に行う。
- (7) 内科学会地方会で症例発表を行い、更に誌上発表を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
<ul style="list-style-type: none"> ・内科系専門科ローテート ・総合診療科病棟にて研修 ・総合診外来従事 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科病棟にて研修（他科へのローテート可能） ・総合診外来従事 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科病棟にて研修（他科へのローテート可能） ・総合診外来従事

【見学等問い合わせ先】

総合診療科副部長 山上 啓子